

SOSの出し方教育の実践について

1. スクールカウンセラーによる「SOSの出し方に関する教育」学習内容

(1) 現状の把握について

- ・ 困った時に「困った」と言えず一人で抱え込んでしまったり、誰にも気付かれなかったりすることは、誰にでも起こり得る。
- ・ これにより問題が複雑化し、助けを求められないまま最悪の事態になることがある。

(2) ヘルプ(助け)・コーリング(呼ぶ)・スキル(技術・技能)の習得について

- ・ 困った時ほどヘルプ・コーリングがしにくくなる。
- ・ 「誰に」、「いつ」、どのように「サイン」を出すのか(伝えるのか)を平常時から想定して準備しておく。可能であれば相談相手に伝えておく。仮に伝えることができなくても普段からコミュニケーションをとっておくことが大事である。
 - 誰：複数いるとより良い
 - いつ：相手に声をかける時間帯を想定しよう
 - サイン：「夕方二人で話したい」は相談したいことがあるというサインだから茶化さずに話を聞いてあげる。
- ・ スキルを身に付けるために、まず試してみる事が大事である。
- ・ 高校年代までは、担任の先生や保健室の先生が近くにいるが、大学生、社会人と成長するにつれて、このヘルプ・コーリング・スキルはますます重要になってくる。中学生のうちは、とにかくスキルを習得するために、試してみる事が大事である。



生徒は、スクールカウンセラーの話を真剣な表情で傾聴することができた。

学習内容を学校便りやホームページに掲載し、ヘルプ・コーリング・スキルを身に付けられるように周りの大人が意識して子どもと関わっていくことが重要であることを啓発した。

2. 自他の命を大切にす、命の尊さを学ぶ場の設定

(1) 保健センターの保健師による「いのちの教育」の講話

(2) 毎年6月に、将来を担う子どもたちが健全な父性や母性を育み、将来の安全妊娠・出産・育児を迎えることができるよう「からだ」と「こころ」や生(=性)に関する行動について学習する講座を行っている。

- ・ 1年生では、思春期における心と体の成長や受精から出産までの赤ちゃんの様子について学習した。将来、いのちを生み、つないでいくという大切な役割を担っているため、自分も自分の周りの人も大切にすることを学んだ。
- ・ 2年生では、望ましい交際について学習した。異性への関心が高まるのは普通のことであり、望ましい交際は命を育み育てていく準備段階であることを理解した。
- ・ 3年生では、性感染症について学習した。性感染症は、感染しても自覚症状がないまま進行し、将来不妊の原因になったり、命に関わることになったりする恐れがあることを学んだ。